

【花祭り】はなまつり

キリスト生誕の日が12月25日(史実ではないが)であることを知らない人は希でしょうが、仏教国に属する日本でも、釈迦生誕の日が4月8日であることはそれほど知られていないように思えます。(2月8日・5月5日説もあり)

釈迦の誕生は釈迦の四大事(出生・成道・初転法輪・涅槃)の一つに数えられます。この日、各寺院では仏生会[ブッシュウエ](浴仏会・竜華会とも)が行われます。これを一般に花祭りと呼び親しまれています。

現行歴史教科書を調べたところ、ほとんどは仏教は紀元前5・6世紀頃、釈迦によって説かれた教えと記載されていました。

しかし、厳密に言えばこれは誤りです。釈迦は一族の名で個人名ではないのです。

ゴータマ・シッダールタ、これが彼の名です。ゴータマは最上の牛、シッダールタは達成という意味があり、本名ではなく信者による美称の可能性は否めませんが、日本人の名にも「悟」「聖」「徳」などの字があるように、彼の実名であった可能性は充分にあると思います。また、ゴータマ・ブッタとも呼ばれていますが、ブッタとは悟った人という意味で彼の人生にあまりにも即していますので、これは伝説の中で生まれた美称と思われまゝです。

ここで簡単にシッダールタ誕生の伝説をご紹介します。

誕生した年代は諸説あり、学者によって約百年もの開きがあります。八十歳で入滅したという伝説も含めて諸説紛糾し定説らしきものは見られません。

インド史の研究は常に年代特定に労を要するようです。インドの古代王朝は中国のように正史を残さなかったからです。

父はインド北方のシャカ族の王シュドーダナ、母は隣国の姫でシャカ族に嫁いできたマーヤー、つまりシッダールタは王子様だったので。

マーヤー王妃はある夜、白い象が天から降りてきて体に入る夢を見ました。懐妊の瞬間です。インドでは象・牛は聖なる動物であることはご存知のとおりです。

マーヤーは出産準備のため郷里に向かいますが、その途中ルンビニーの花園に立ち寄ります。ルンビニーは現在のネパール領で、インドとの国境付近にある所です。

マーヤーが園に茂る樹木の一枝を採ろうと右手を差し伸べ枝に触れた瞬間、右腕脇からゴータマ・シッダールタが生まれました。

生まれるとすぐに七歩歩いて右手を上を上げ天を指し、左手で地を指して「天上天下唯我独尊」と言ったという伝説はよく知られていますね。

「唯我独尊」とは俗に言う自己中・ワンマンという意味ではなく、「人は誰も独自の尊さを持っている」「真理はひとつ」と仏教学者は解釈しているようです。

私は、個性的なバラモンや仙人の多くいた時代ですからズバリ「私の教えこそ唯一正しく尊いの

だ」と言ったのではと思いますが、俗人の愚論なのでしょう。

彼が「唯我独尊」を唱えると竜王が天から冷水と温水を産湯として灌水しました。あるいは甘露の雨と優曇華の花を空から降らせ祝福したという伝え、竜王ではなく梵天・帝釈天だという伝えもあります。

これらの伝説は紀元前3世紀の最も早い時期の仏典『スッタニパータ』には見られませんのでそれ以降にできた伝説と思われます。バールフットの遺跡にはこの話を現したレリーフがありますので紀元前2世紀には成立していたはずです。

『日本書紀』推古天皇十四年(606)に「この年より初めて寺毎に四月八日、七月十五日に設齋す」とあるのが日本の仏生会とお盆の始まりです。この時代の日本は盛んに仏教文化を受け入れていました。東京国立博物館の法隆寺館には釈迦誕生の様子を表した飛鳥時代の金銅像〈摩耶夫人及び天人像〉が現存しています。

<http://www.tnm.go.jp/jp/servlet/Con?pageId=B07&processId=02&colId=N191>

さらに、東大寺には国宝〈誕生釈迦仏立像および灌仏盤〉という天平時代の遺品が遺されています。<http://yamatoji.pref.nara.jp/topics/1250/gazo6.htm>

まさに「天上天下…」と唱えた瞬間です。このような図像は略して誕生仏と呼ばれています。

4月8日の仏生会には多くの寺院で参拝者が誕生仏に頭から柄杓で甘茶をかけ祝います。誕生仏を乗せる灌仏盤は甘茶を受けるための盥盆なのです。

頭から甘茶をかけるのは竜王の灌水に因むものです。花祭りという名称も空から降った優曇華の花、あるいはルンビニーの花園に因み誕生仏の周りを花で飾ることから付いた名です。庶民的で春らしい名ですね。

<http://www.morita-fumiyasu.com/>

~ Copyright (C) 2011 ~私の書齋~ 森田文康. All Rights Reserved.~